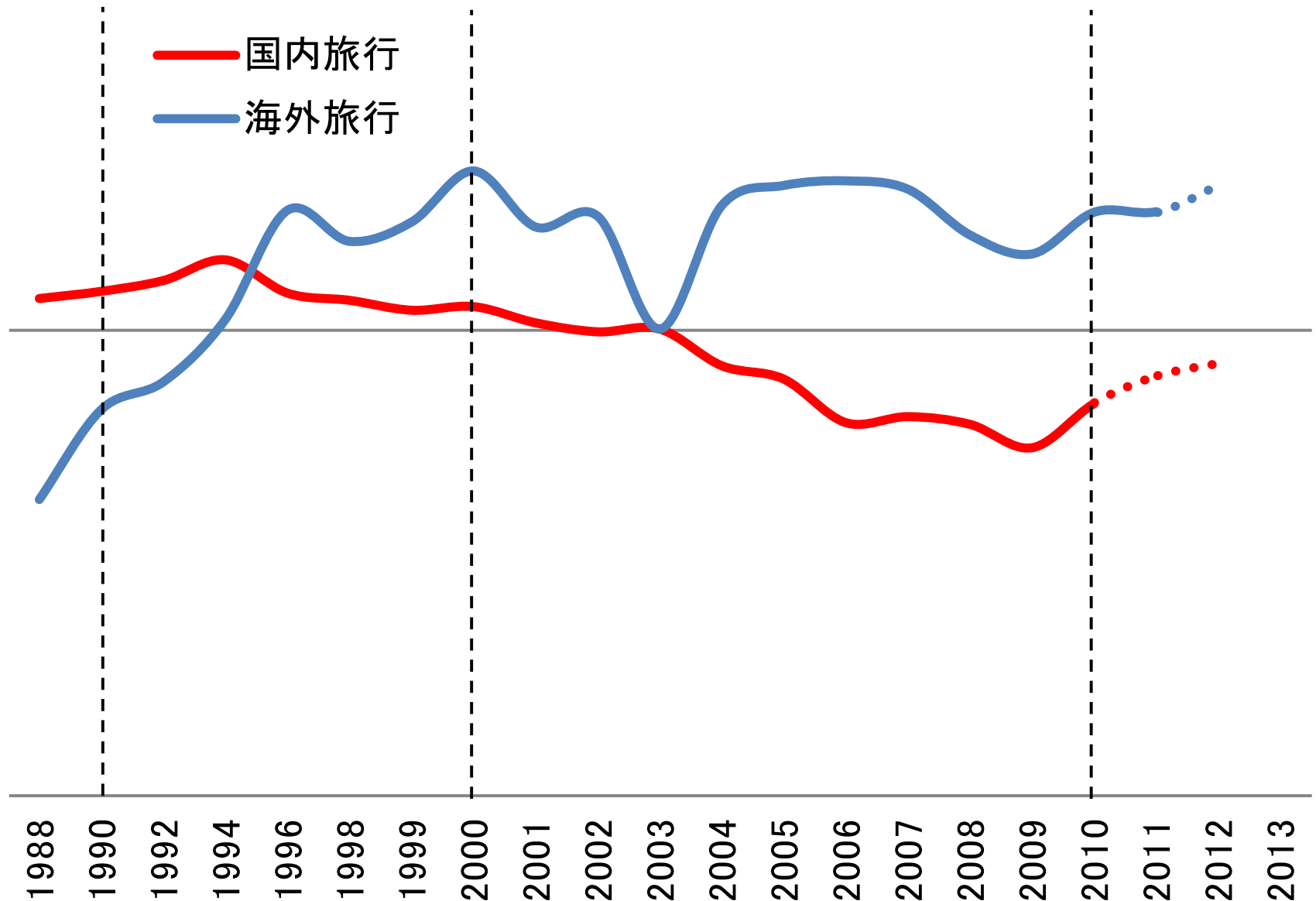


# 旅行と余暇活動の関連性と 構造的変化に関する研究

公益財団法人日本交通公社

主席研究員 黒須宏志

# 旅行マーケットの規模(延人数ベース)



※2003年を100とする指数／破線はJTBF予測／実績値は(社)日本観光振興協会「観光の実態と志向」、及び法務省データにもとづく

# 余暇活動の参加率

	1986	1991	1996	2001	2006	傾向
スポーツ	71.7%	74.6%	72.1%	70.0%	63.9%	↓
趣味・娯楽	85.2%	90.0%	88.6%	84.7%	84.4%	↓
学習・研究	33.2%	34.6%	29.1%	34.7%	35.0%	↑
社会活動	25.3%	30.0%	26.9%	28.4%	26.0%	↓
旅行・行楽	79.4%	80.2%	81.6%	80.0%	75.9%	↓

※色をつけてあるセルは参加率が最高に達した年  
資料:総務省「社会生活基本調査」(5年ごとの調査)

活動頻度  
上昇

海外旅行  
ジョギング  
遊園地・テーマパーク  
観劇  
スポーツ観戦  
芸術鑑賞  
俳句

ウォーキング  
サイクリング  
軽い体操  
日曜大工  
ゲーム  
料理  
ビデオ

参加人口  
減少

参加人口  
増加

国内旅行  
ゴルフ  
スキー・スノーボード  
野球  
テニス  
フットボール  
カラオケ

音楽鑑賞  
読書  
編み物

活動頻度  
下降

資料:総務省:社会生活基本調査  
※1996年vs2006年

# 本発表の目的

- 余暇活動、特にスポーツや趣味と旅行（観光目的のもの）の関連性を、活動頻度の観点から分析した結果を報告する
- 『レジャー白書』が提唱した「選択的投資型余暇」仮説が正しいとすれば、限られた余暇時間・レジャー資金の“部門間での取り合い”のような現象がみられるはずであり、この点に注目して分析を行う
- 趣味、スポーツ、旅行を通じた「低頻度層」の振る舞いに注目する

# 分析の方法

1. 社会生活基本調査1991年、2001年の個票データを分析対象
2. 各レコードにおいて、活動頻度(0~7)別に、実施しているスポーツ、及び趣味の種目数をカウント(頻度0が2種目、1が3種目...)  
※対象を91年と01年で共通する種目に限定
3. スポーツと趣味とそれぞれについて、活動頻度別参加種目数にもとづきクラスター分析
4. 得られたクラスタ毎の旅行頻度(観光)の変化を分析

# 頻度区分

	番号	頻度記述	年間に
活動なし	0		
年に数回	1	年に1~4日	1~4日
	2	年に5~9日	5~9日
月に数回	3	月に1日	10~19日
	4	月に2~3日	20~39日
毎週活動	5	週に1日	40~99日
	6	週に2~3日	100~199日
	7	週に4日以上	200日以上

# 対象活動種目

スポーツ				趣味			
1	体操	11	テニス	1	読書	11	DIY
2	ボウリング	12	バドミントン	2	カラオケ	12	ポップミュージック
3	水泳	13	卓球	3	園芸	13	手芸
4	ゴルフ	14	ゲートボール	4	クッキング	14	洋楽
5	釣り			5	映画	15	クラシック
6	野球			6	観戦		
7	ソフトボール			7	パチンコ		
8	スキー			8	鑑賞		
9	バレーボール			9	観劇		
10	走る			10	裁縫		



# 得られたクラスタ数の分布 (各20回試行)

		クラスタ数												
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
スポーツ	91年	1	0	4	6	3	4	0	0	0	0	0	2	0
	01年	0	0	0	6	2	5	1	0	0	0	1	2	3
趣味	91年	2	1	1	1	11	2	1	0	0	0	0	1	0
	01年	2	0	0	7	9	2	0	0	0	0	0	0	0

SPSSの「TWO STEP のクラスター分析」を使用

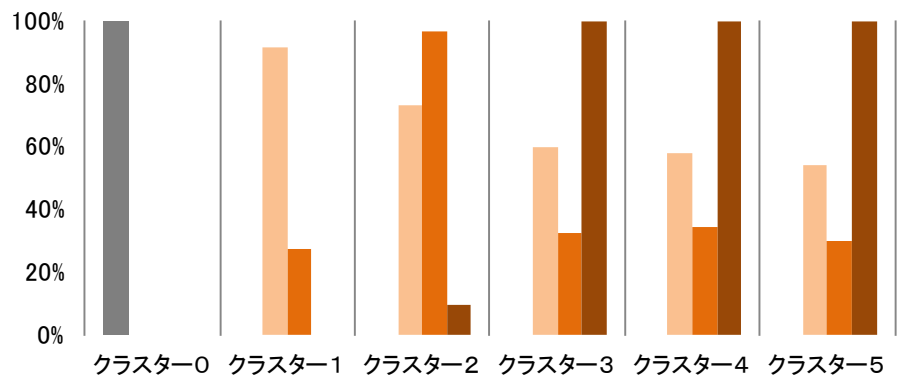
試行毎に乱数によってレコードをソートして実行した結果

出現頻度が高く(安定)、91年と01年で比較するため同じクラスター数を選択

# クラスタの特徴とサイズ(スポーツ)

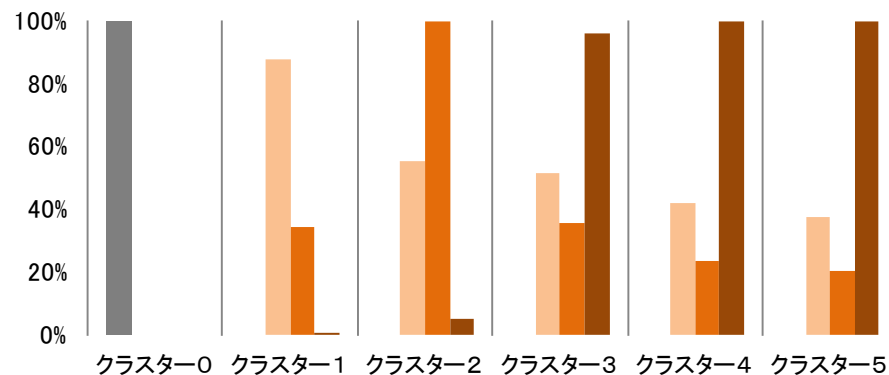
## スポーツ 91年

■なし ■年に数日 ■月に数回 ■週1回以上



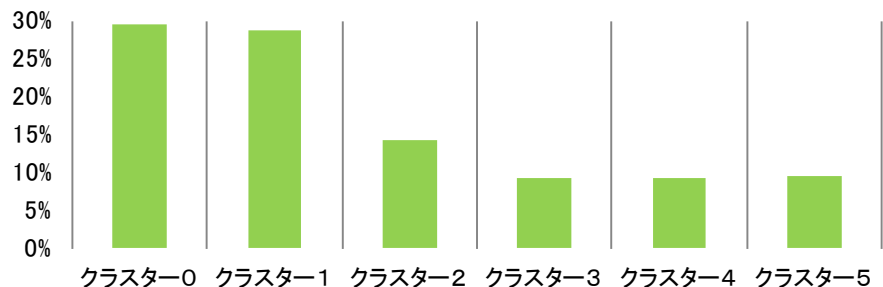
## スポーツ 01年

■なし ■年に数日 ■月に数回 ■週1回以上



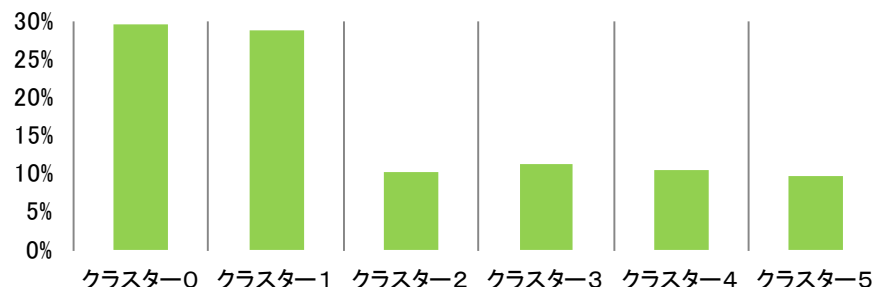
## スポーツ 91年

■クラスタサイズ



## スポーツ 01年

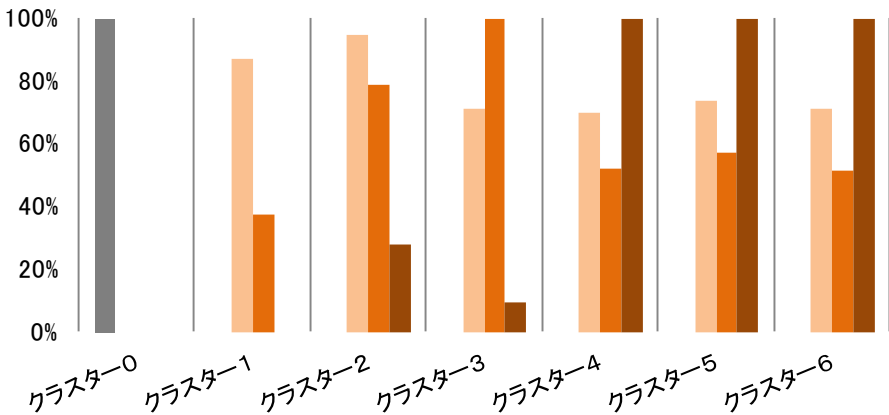
■クラスタサイズ



# クラスタの特徴とサイズ(趣味)

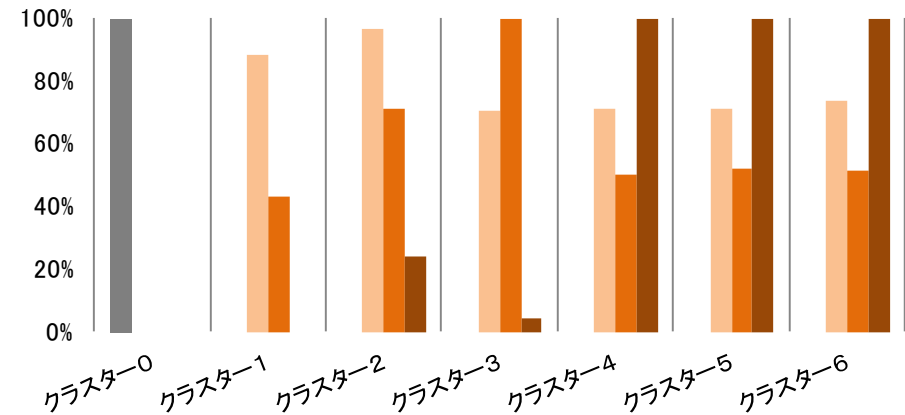
## 趣味 91年

■なし ■年に数日 ■月に数回 ■週1回以上



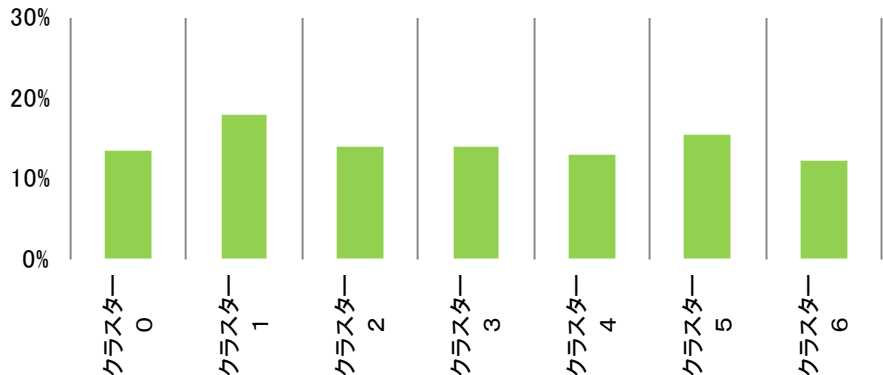
## 趣味 01年

■なし ■年に数日 ■月に数回 ■週1回以上



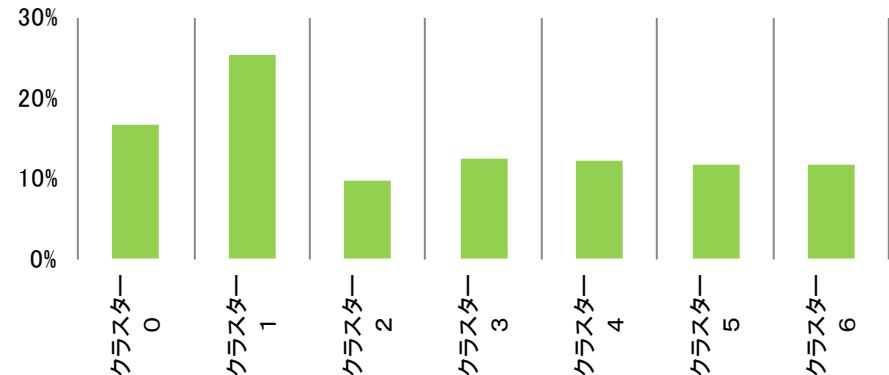
## 趣味 91年

■クラスタサイズ

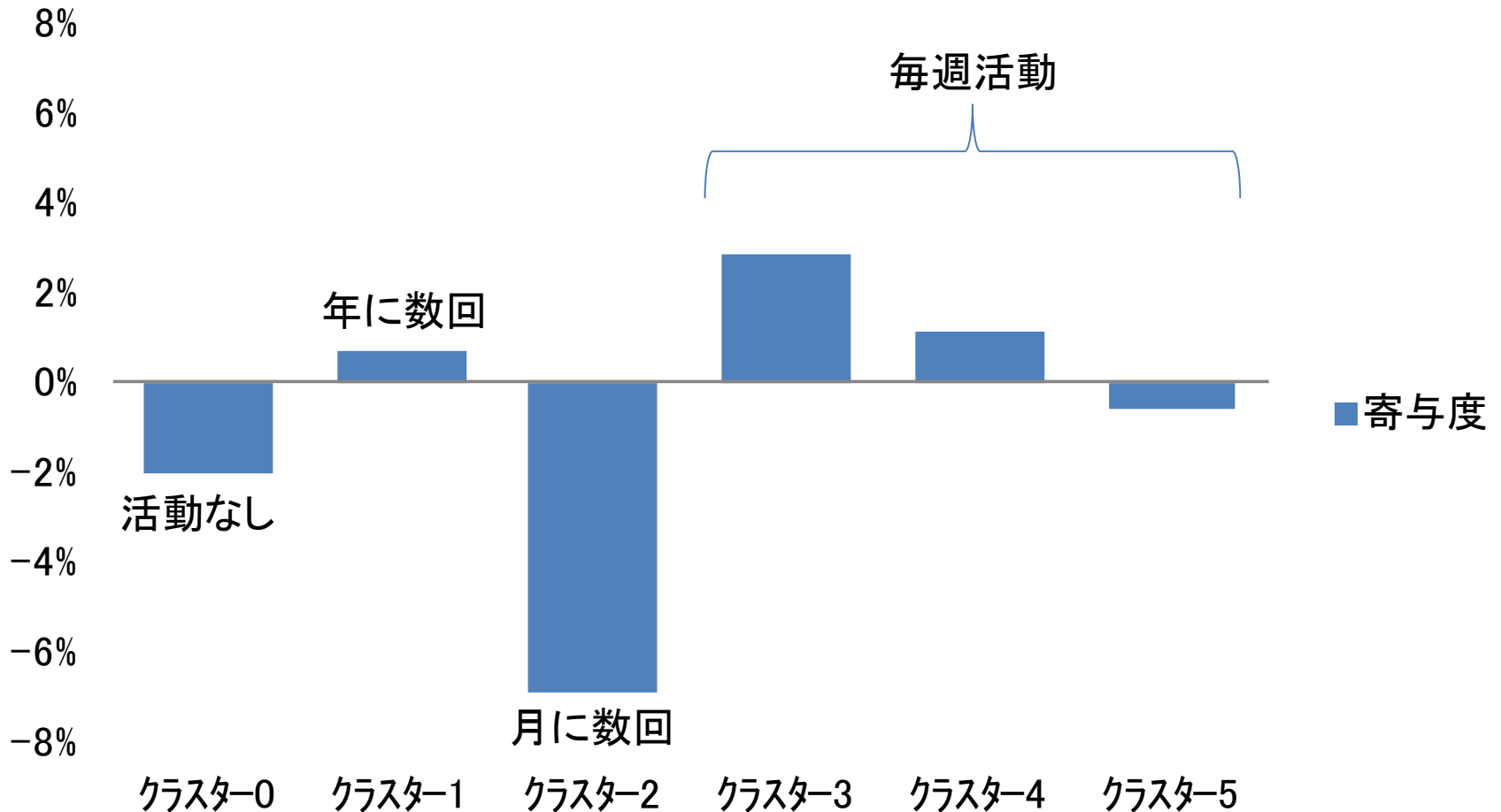


## 趣味 01年

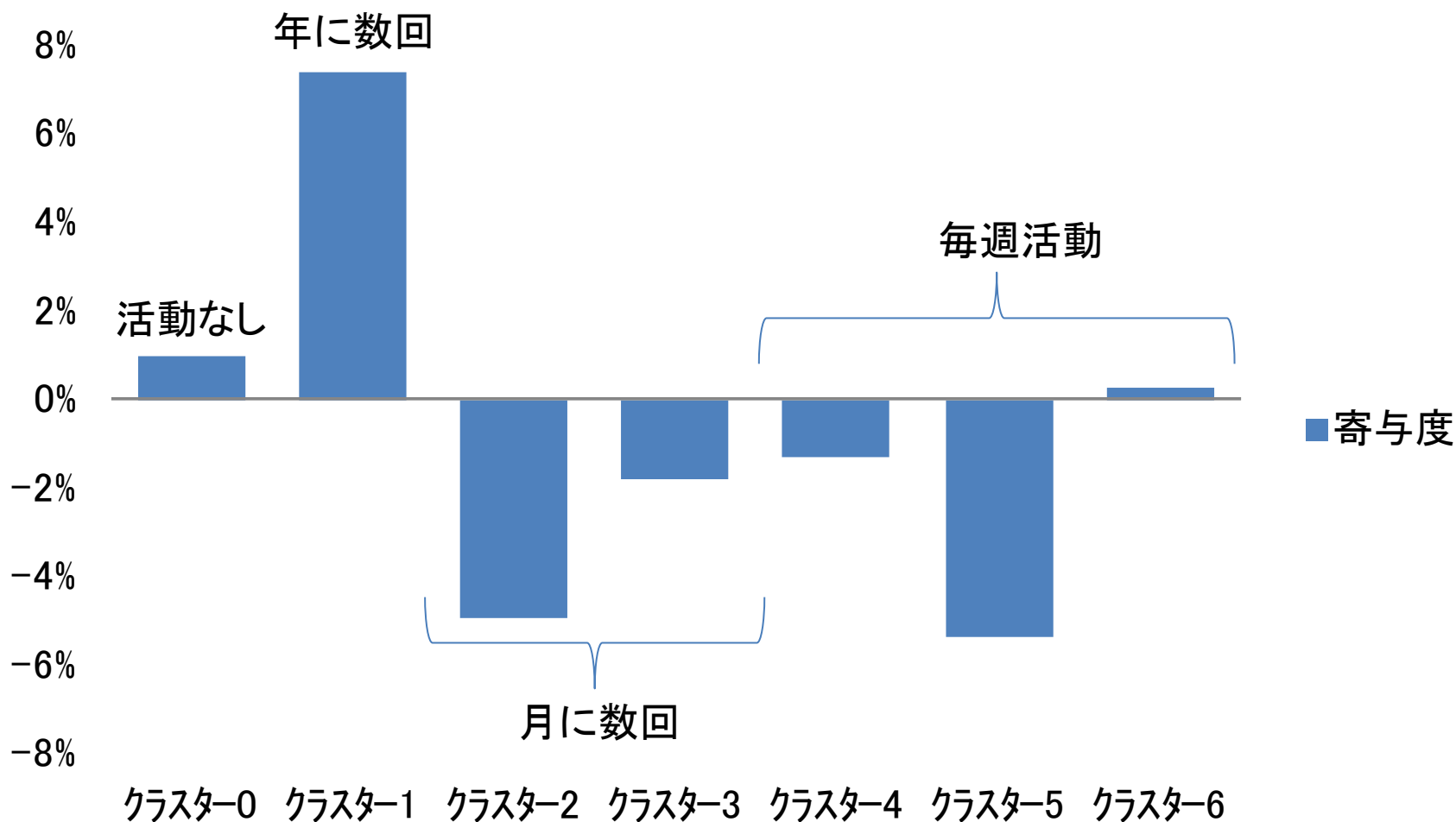
■クラスタサイズ



# クラスター別にみた旅行量への寄与度 (01年と91年の比較・スポーツ)



# クラスター別にみた旅行量への寄与度 (01年と91年の比較・趣味)



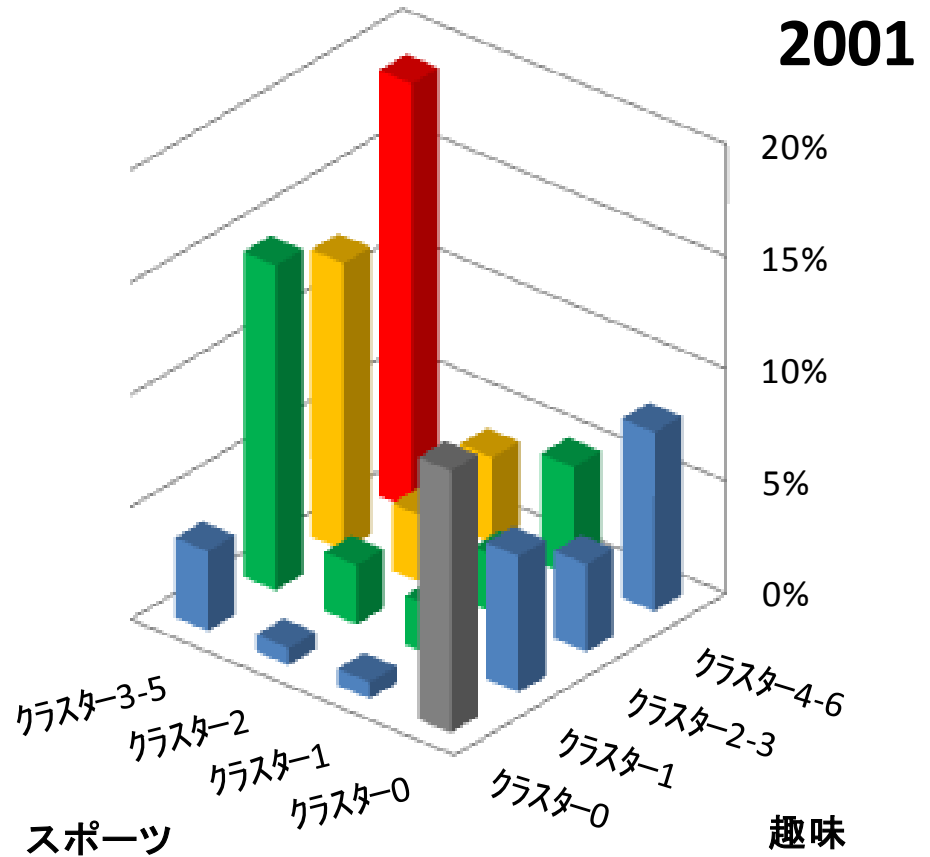
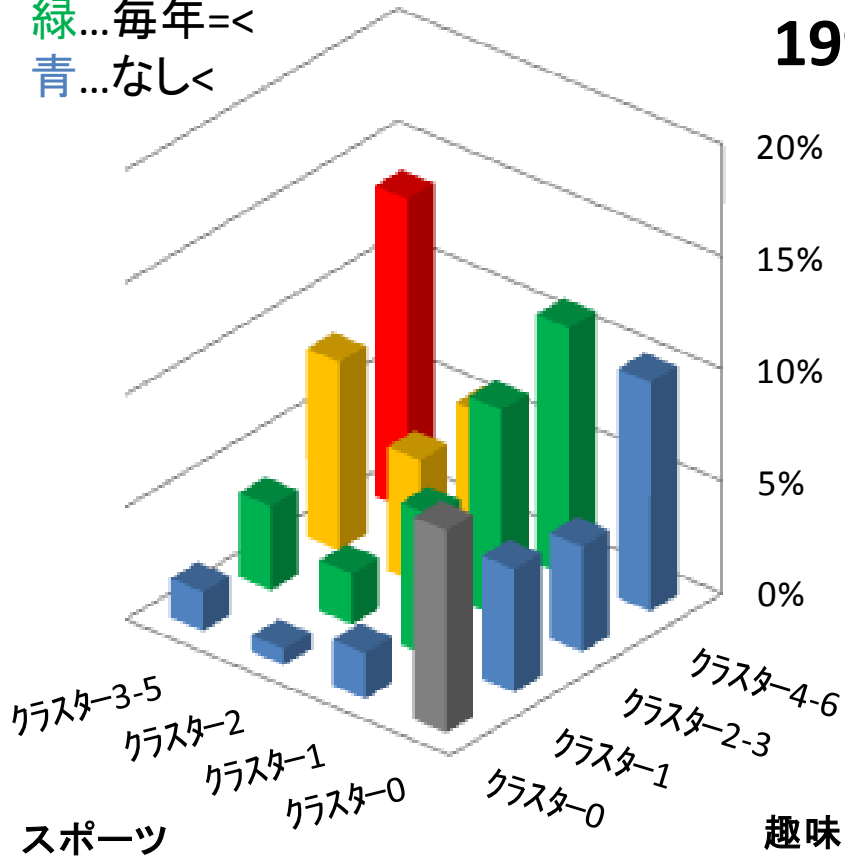
「スポーツと旅行」  
「趣味と旅行」

という2次元的比較では一貫性ある  
変化の構造は見いだせず

# スポーツ x 趣味

## クラスターのクロス集計構成比

赤...毎週  
 黄...毎月=<  
 緑...毎年=<  
 青...なし<



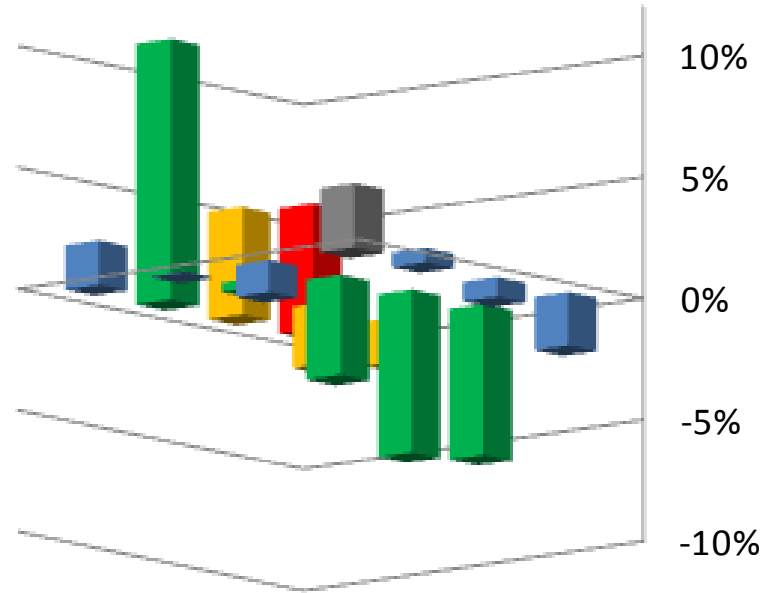
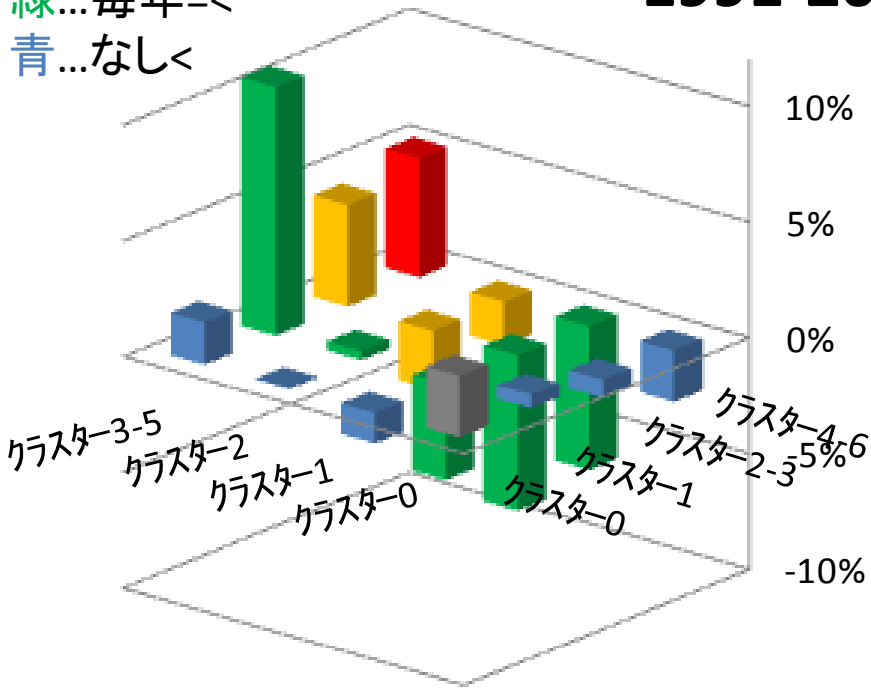
# スポーツ x 趣味

## クラスターのクロス集計構成比の変化

赤...毎週  
 黄...毎月=<  
 緑...毎年=<  
 青...なし<

1991-2001

1991-2001



スポーツ

趣味

スポーツ

趣味

右の図は左の図を下から見上げたもの



# スポーツ x 趣味

## クラスターのクロス集計構成比の変化

		スポーツ			
		クラスター0	クラスター1	クラスター2	クラスター3-5
趣味	クラスター0	2.7%	-1.3%	0.0%	1.8%
	クラスター1	0.6%	-4.1%	0.4%	10.7%
	クラスター2-3	-0.8%	-6.7%	-2.5%	4.4%
	クラスター4-6	-2.2%	-6.2%	-1.9%	5.1%

趣味の高頻度層がスポーツの高頻度層へシフトかのような変化が見受けられる

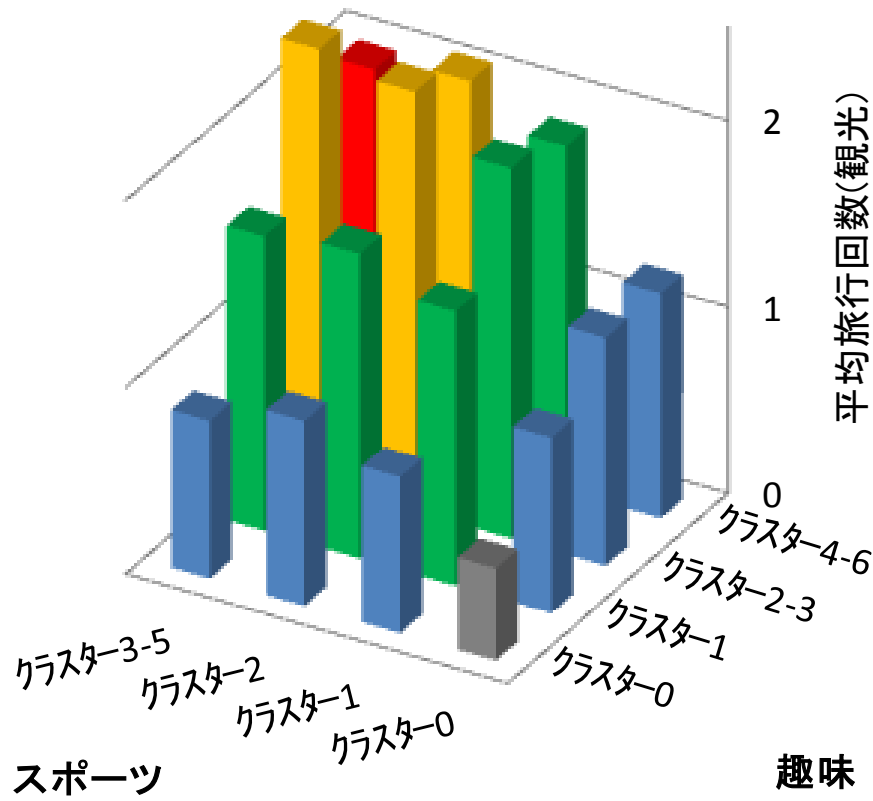
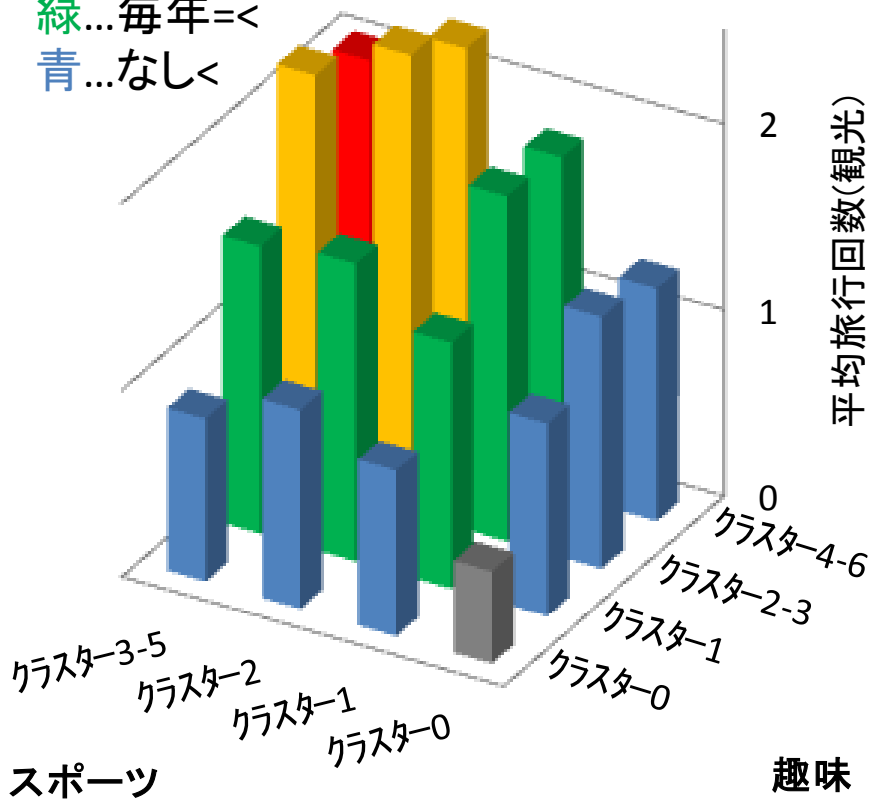
# スポーツ x 趣味

## クロスセグメント毎の旅行頻度

赤...毎週  
 黄...毎月=<  
 緑...毎年=<  
 青...なし<

1991

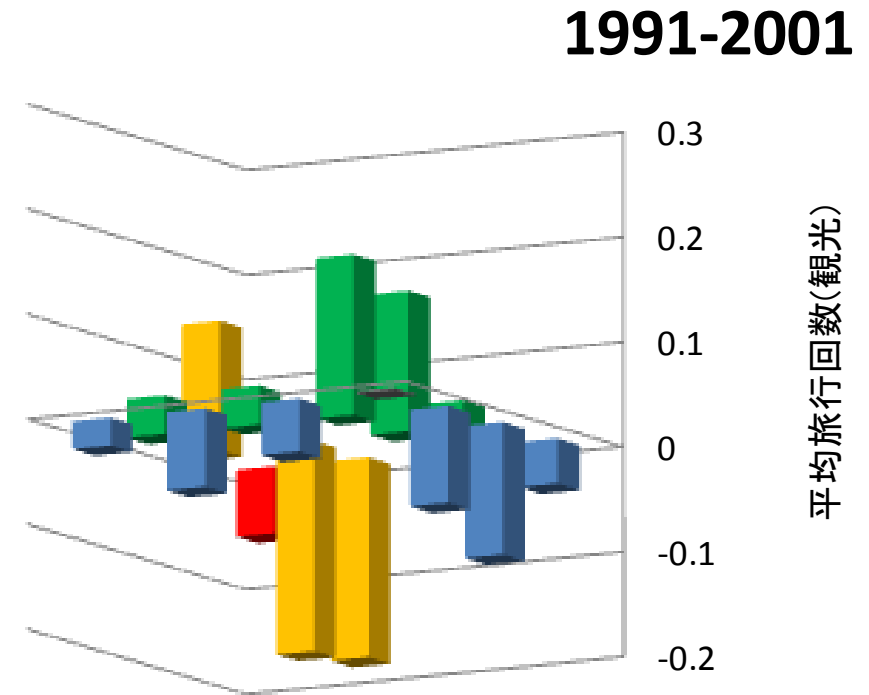
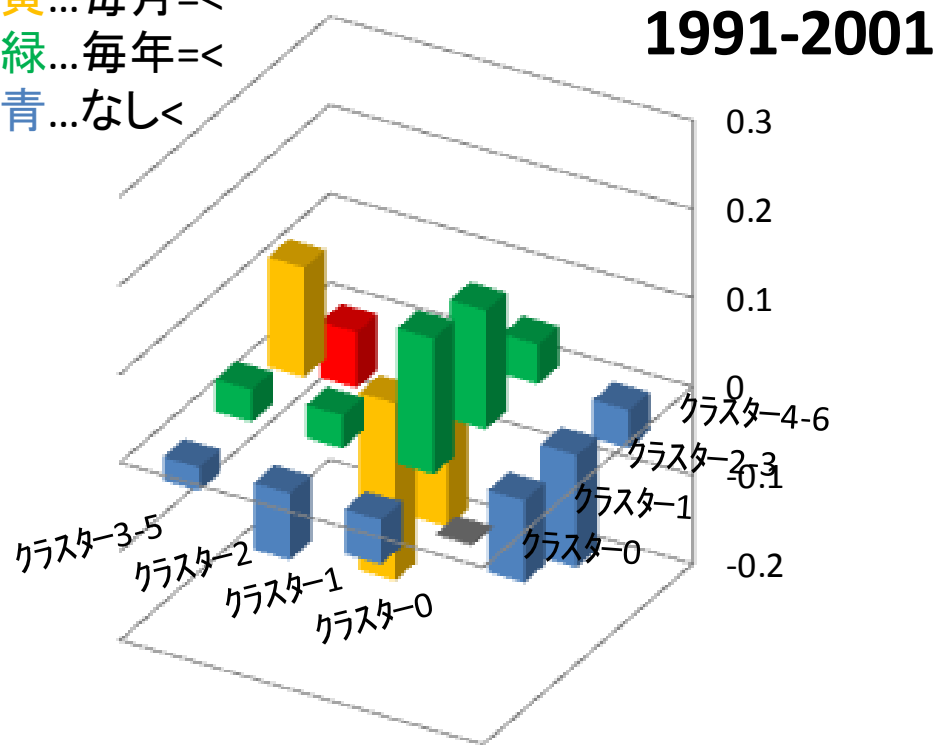
2001



# スポーツ x 趣味

## クロスセグメント毎の旅行頻度の変化

赤...毎週  
 黄...毎月=<  
 緑...毎年=<  
 青...なし<



平均旅行回数(観光)

スポーツ

趣味

スポーツ

趣味

「緑(毎年=<)」で旅行頻度が上昇、「青(なし<)」と「赤(毎週)」は下降、  
 「黄(毎月=<)」は十と一がミックス

# スポーツ x 趣味

## クロスセグメント毎の旅行頻度の変化

- スポーツはしない、趣味はない、といったセグメントは余暇活動全般に“低活性”な層とみられ、旅行頻度も全般に低下している
- スポーツ、趣味のいずれも毎週活動しているセグメントでは、日常性活動への加重の結果か、旅行頻度は低下している
- 中間にあたる層のうち、スポーツ、趣味のいずれかが年数回程度の頻度にとどまるセグメントでは旅行頻度が上昇している（日常性活動より旅行に加重されている可能性）
- 中間にあたる層のうち、スポーツ、趣味のいずれかで月数回以上の活動を行っているセグメントでは、スポーツ、趣味のどちらに加重しているかによって旅行頻度の変化傾向が異なる
  - スポーツのみ加重...旅行頻度は上昇
  - 趣味加重、もしくは趣味＋スポーツ加重...旅行頻度は低下

# 旅行頻度01年vs91年対比 まとめ

- 趣味・スポーツに活発な層ほど旅行頻度が高いという相関関係が存在する一方で、91年～01年の10年間で比較すると、“低活性”層だけでなく、毎週、或いは月数回以上の頻度で活動を行っている高活性層でも、旅行頻度は大きく低下した
- 一方、低活性層と高活性層の中間の層で旅行頻度が幅広く上昇した
- 中間層が旅行にどのような価値を見出して選択したか、検討の必要がある

ご静聴ありがとうございました